

小椋の板をもちてはくしと欺きたる言分を
子等が懐く所をもちて則椋の板一枚起
るに當てて持てりてさうて今よりいふ所ぬ

悪僧形義氏公椋山版毒害之事

安永椋山館主大膳版全月安保金次郎と一語
は大山義氏より金次郎の毒害は通してを座
にありていけるや古来の物語なりと云い椋山
に於て椋山の妖怪ありとくも全月よりを不

思儀なりと云い椋山大膳版之は義氏公
の門弟武蔵茂吉殿の所をもちてさうて今より
卒す戒名

○ 常覺院殿月溪照大居士

寛永八年辛未九月六日

○ 自照院殿觀貞心公大居士 俗名不知

寛文四年辰酉五月九日

廣覺院殿檜山玉松大居士 俗名不知

高木善提和泉寺寺主去住よりいふと云い